「被爆６７年、核兵器廃絶２０１２年平和行進」にご参加の平和行進神奈川県懇談会の皆様に心から敬意を表します。

広島・長崎に原爆が投下されてから６７年が経過し、戦争や原爆の記憶が次第に風化しつつある一方、世界各地では依然として紛争が絶えず、人々は未だに核の危機にさらされています。

特に、近年、核兵器不拡散条約（ＮＰＴ）加盟国による核開発疑惑や非加盟国による核実験の強行など、核不拡散体制を脅かす動きが顕著になっていることは大変に懸念されるところであり、世界の非核化を願う人々に大きな衝撃を与えています。

本市は、平成１６年４月に「逗子市非核平和都市宣言」をしており、核実験実施の際には、核兵器のない平和な世界の実現に向けた思いを伝えるべく抗議文を提出するなど、鋭意取り組んでまいりました。

残念ながら、こうした取り組みにもかかわらず、現実には核保有国においては核軍縮が遅々として進まず、また新たな核開発の動きが見られるなど、核兵器根絶への道のりは未だに遠いと言わざるをえません。

しかし、私はこのような時代こそ、草の根レベルで平和への願いを訴え、語り継いでゆくことが必要であり、市民に最も身近な市町村の役割はますます重要になっていると認識しています。

本市では、若い世代が戦争や核の問題を知り語り継いで行くことを目的に、市内中学生を被爆地の広島・長崎へ派遣するピースメッセンジャー派遣事業を実施しているほか、今年度から「ずし平和デー」として非核平和を市民に呼びかける催しを市民協働で開催することとしております。

今後も、多くの方に平和な社会の実現について考えていただけるよう努めるとともに、地域の皆さんが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

最後に、この「被爆６７年、核兵器廃絶２０１２年平和行進」のご無事と皆様のますますのご健勝、ご活躍をお祈り申し上げます。

２０１２年（平成２４年）５月１５日

逗子市長　　平井　竜一

逗　子　市

青い海と　みどり豊かな　平和都市